

# フェリス女子学院短期大学

## 第七号

### フェリス女子学院短期大学 音楽科同窓会

六月十日発行

ごあいさつ

フェリス女子学院短期大学長

佐藤 馨

音楽科同窓の皆様、御元気に御活躍のことと申します。男と比較すると、女性はたとえ結婚することによって、あるいは結婚しないことによつて、ドラマティックといつてもよいような変化をされる人が多いようです。どのような場所にあつても、わがフェリスの伝統である内面に向かう深い思索と、外面に対する活気のある行動力をもつて進んでいただきたいと思ひます。本年度の入学式に、新入生に「皆さんは年とともにフェリス女子学院に学んだことを、誇りに思われるでしょう」と話したのですが、多少しらくたといわれる若い世代に、同窓の皆さんと教員が力をあわせて良い働きかけをしたいと考えています。

本年度の音楽科の活動のひとつとして、九月二

十九日に静岡市で学生六十名と同窓生および先生方により、また十月四日には京都市で学生百二十名と先生方および京都市交響楽団によつて、それぞれ演奏会を行います。すでに現地の同窓生がいるいろいろな面から協力してくれていますが、このような機会に各地の同窓生が集つて、行事を通して音楽科卒業生としての一体感を味わっていたければ、そして学校や学生に対する助言をいただければと願つている次第です。

## 西南支部発足の

ごあいさつ

支部長 田村 淑子

さわやかな五月、皆様御機嫌いかがお過しですか。

地方に住んでおられますと、上京することも少なく、フェリスともしだいに疎遠になり、何かの機会にフェリスの名を見つけますと、楽しかった学生時代を懐かしく思ひます。

古くなりますが、昭和三十年、三十二年と九州からも卒業生が始め「〇〇先生、御来福」のニュースが入りますと、全員集合。先生を囲み、フェリスの話を聞かせていただき、思ひ出話に花を咲かせ、又勉強をつづけていく上での御指導もいただき、悩みを話し合つたりの、ひとときを過し満足しております。卒業生も、少しづつでしたが増え、今では福岡、熊本ばかりでなく、長崎、

宮崎、山口、広島と広範囲となり、二〇〇名程の大所帯となりました。

この度、学校側とも話し合い、同窓会の西南支部として、三月二十九日、大島君子先生をお迎えし、福岡市の全日空ホテルに於て発会式をもち、独立させていただきました。何も分かりませんがますます縦横のつながりを持ち、お互いの向上の為にも、助け合つていきたいと思ひます。

尚、初めて研修会として、七月二十九日、ヘルムード・ドイチ先生をお迎えして、シューマン「女の愛と生涯」を通して、音楽的解釈と伴奏法についての公開講座を予定し、今準備に張り切っております。

支部長

田村 淑子

(8 回生)

書記

宮田 雅子

(26 回生)

会計

荒川 弓子

(26 回生)

役員

佐竹 悠紀

(11 回生)

城後 節子

(15 回生)

吉野 智寿子

(20 回生)

上野 玲子

(24 回生)

荒牧 幸子

(25 回生)

(北九州) 山口 誠子

(16 回生)

(熊本) 西野 真利子

(25 回生)

# 永遠に女性的なもの

渡辺 明

すべてのものにすぎず、ただの映像にすぎず、不十分なものでここに充たされ、筆舌に尽せぬことここに成就されたのが、永遠に女性的なもの、我等を昇華せしむる

Alles Vergängliche  
Ist nur ein Gleichnis;  
Das Unzulängliche,  
Hier wird's Ereignis;  
Das Unbeschreibliche,  
Hier ist's getan;  
Das Ewig-Weibliche  
Zieht uns hinan.

これは、ゲーテが24才から82才までの、実に58年間を費して完成した「ファウスト」の最終節です。ゲーテが全生涯の最後に到達した「真理」Das Ewig-Weibliche zieht uns hinan. (永遠に女性的なもの)によって我等は救われる)の持つ深いひびきが、年と共にはげしく私の心をうつ。誰がなんといってもこの世の中には男と女

しかいません。これはまぎれもない事実です。であるならば、男が男であり、女が女であることの時代を越えた本質と価値を、絶えず問い直しつづける必要がある様に思います。少なくとも女子大学などは、この全宇宙的な中の「女」の意味を探す場であってほしいし、そこから「女性的なもの」が核として浮び上って来たなら、それこそ「真・善・美」を形成する唯一の大きな力となるでしょう。

男はどこまで行っても年令に関係なく「ガキ」です。政治も経済もみなこのガキの大きなわざな

です。すなわち、勝ったり、負けたり、奪ったり奪われたり、という常に「横の戦い」が男なのです。そこには、人格的なもの、人間的なものの質的な向上をめざす「縦の戦い」は存在しません。この「縦の戦い」こそ「女性的なもの」によって支えられているのです。

ところが最近では、女までがガキになり、男も女も入り混って「ガキの戦い」を始めているのでは

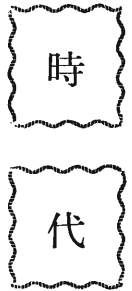
## ◆三 総会をひらきます ◆

7月5日(水) 10時~2時半 於 同窓会室

直喜中田、受賞された横浜市文化賞の横濱市  
直喜中田、受賞された横浜市文化賞の横濱市  
直喜中田、受賞された横浜市文化賞の横濱市

男が、男の身勝手な理論から押しつけている女性像——従順で、料理がうまく、エプロン姿がよく似合う——が「女性的なもの」でしょうか？  
女が、ウーマンリブと称して、女権の回復を叫び騒々しく行進することが「女性的なもの」の具現となるでしょうか？  
ゲーテの深い意味を、こんな浅薄な論理でしか説明出来ないくやしきは

残りですが、美しいベルシャの絨毯も、縦糸と横糸が静かに、微妙に結び合っていて出ています。  
男も女も、人間それ自体は移ろいやすい映像であり、不十分なものでしょう。しかし、それぞれが自覚し結ばれ、大きな意味で作品化されたなら充たされ、成就されたものとなるように思われます。



大島 君子

こんな話を聞きました。

「大昔の人間は、力の強い人が尊敬を受ける、いわば腕力の時代だった。やがて産業革命が起こると、その力を使って富を築く経営者が世の賛辞を受ける時代になった。そして更に科学技術が発達してくると、それをもたらす人間の頭脳に焦点が置かれて、すぐれた知力に最大の価値を認めるようになった。しかし現在、その知力はいかに人間を上回る知力をも生み出してしまった。電子計算機は、人間の考えられない計算をこともなげに片付けてしまい、やがては人工頭脳が、人間に不可能な記憶や推理までもやっけてのけてしまうであろう。そうなったら人間は何に最大の価値を置くようになるのだろうか。何になるか分からないけれど、恐らくは心の中の問題に入って行くのではなからうか。真心とか、心遣いとか、美しさとかの。——」

これは或る科学者の言葉ですが、この説に沿って考えれば、未来は精神の時代、芸術の時代であり、私達音楽をする者は、時代の先駆者として多大の責任を負うこととなりますが、皆様はどうお考えになりますか？

# ウィーンの思い出

斉藤悠子

昨年三月、パキスタン航空の一年間有効航空券を利用して、ヘルムート・ドイチ御一家と、ワルター・モアー御一家に御世話になり、約一年間、ウィーンに滞在する事が出来ました。

三月の末にミラノに着き、江口元子先生と合流二週間程ミラノに滞在、そこで、大ピアニストになろうとしている18才の青年(勿論日本人)に出会い、ポリーニ・ミケランジェロの先生でもあるビドゥフツ先生のレッスンを聴講する事が出来出発早々大変な刺激をうけました。

四月はじめに江口先生と御一緒に、ウィーンにはいり、数時間私達より先に、ウィーンに着いた大島富士子さんはじめ、ヘルムート一家の迎えをうけ、ウィーンでの生活がはじまりました。

私の住んでいた所は、Hutfeldtと云う所で、Stadtbahnの終点、いわゆるウィーンの中心から約四十分位の所で、近くには自然動物園(と云っても、私が見たのは、森や草原の中を歩きまわっていたイノシシとブタだけでしたが)があり、とても静かな所です。

私の住んでいた家(ヘルムートのお母様の持家)には、広い広い庭があり、その庭には、リンゴ、クルミ、サクランボ、洋ナシ、プラム、アンズ等の大木があり、それぞれの季節には、木からもぎたてを食べる事が出来、自然を満喫しました。四月のはじめには、果物の木に小さな花が咲き、それは見事でしたが、連日一週間程、午後から雪が降り、大分傷めつけられましたが、四月の

末には、野草が咲きはじめ、ブッター・ブルーメの黄色、マーガレットの白、その他、ブルー、紫と色とりどりの小花が咲き乱れ、まるでその広い庭一面に、小花を散らしたジュエタンがしきつめられた様でした。六月のはじめには、サクランボを食べ、それもはじめのうちは、手のとどく所からつまみはじめましたが、最後には皆で木に登って採り、サクランボのお菓子を焼き、クヌードゥルを作り楽しみました。五月には倉長先生御夫妻も、ウィーンいらつしやり、五月末には、やはりフェリスの卒業生(卒業したてのホヤホヤ)御二人、岡本衣代さん、田中まき子さんも加わり、フェリスも大変にぎやかになりました。



そして四人共、ウィーン・アカデミーのドイツ語の教授、ソモギー教授に、それぞれ個人教授をうける事が出来、全然、わけもわからなかった独語が、多少解かる様になり、ウィーンの生活を快適に出来た足がかりになりました。そして八月には中田幸子さんもウィーンにいらして、三週間程御一緒に過ごし、この時ばかりは、遊びに遊び、ザルツカンマーグードにドライブ、グラーツではホイリゲ、テラスでの夕食にと招待をうけ、オーストリー人の茶目気にも数多く接触して、裏と表の両面をみました。九月には、チェコ、十一月にはハンガリーと、共産圏にも足をのばし、ハンガリーでは、コダーイ音楽研究所を訪問する事が出来、ソルフェージュの授業、ピアノのレッスンを見学、十二月には、ザルツブルグのカール・オルフ研究所を訪問、そして非常に印象的な、クリスマスを迎えました。十二月のはじめから、主婦は、クリスマスマスのクッキーを焼きはじめます。働き者の主婦は20種類もの異ったクッキーを焼くそうです。クリスマスマスの四週間前には、四本のローソクがきれいに円形の台に飾ざられ、一週間に一本ずつ火がともされ、いよいよクリスマスには、モミの木に小さなローソクが沢山飾られ、火が灯されその木の下には、家族それぞれにプレゼントが山積みされます。(デコレーションは24日、当日にされる様です)木の上に、洗濯バサミの様なもの、とめられたローソクに火がつき、その上、木の上に、線香花火の様な花火が、パチパチと踊り真暗にした部屋で、それは見事にきれいでしたが火事の事は心配しないのかしらと、かえって私の方が心配してしまいました。

そして、ローソクを消して、その家庭の子供達

がブレゼントの山から、それぞれにブレゼントを手渡し(約一時間以上かかりますが)そして、やっと食事になります。24日には、魚料理を食べる家庭が多い様で、スープからはじまり、デザートには、例のクッキー(多くの種類の)がでてきます。私も、ヘルムートの御母様を手伝い(?)クッキーを何種類か作りました。ウィーンの音楽、ハンガリーの教育法など、本来なら説明すべきなのですが、とてもそれを言いつける程の知識もないので、ヘルムートの御母様に習いましたウィーンの「ターフェル・シュピッツ」の作り方を紹介したいと思います。

脂の少ない牛肉(固りのまま)に塩をして、水からゆがきます。(これは後で、スープとしていただきます)その中に、粒コショウ、たまねぎ、スープ用の野菜(適当に)を加え、肉がやわらかくなるまでゆがきます。肉が出来上ったら、とりだし、薄く切つて、ソースと伴にいただきます。スープは適当に具を入れていただきます。ソースは、何種類かつくりませんが、リンゴを煮て裏ごしし、その中に西洋ワサビ(ホースラディッシュ)塩、コショウ、オイル、酢を加え味を整えます。もう一つのソースは、固ユデ卵2個、パン2切れ(水にひたし少しやわらかくする)と一緒に裏ごしし、その中に塩、コショウ、酢、オイルで調味し、シュニット・ラオホのみじん切りを加え、一時間程ねかしておきます。シュニット・ラオホは味はわけぎの様ですが、姿はニラの様に細いものですが、わけぎを代用して充分と思います。小麦粉とバターをいため、スープでのぼし、その中にホーレン草の裏ごしを加え、塩、コショウで調味します。つけ合せとしてはジャガ芋(丸のまま)をゆがき、適当な大きさに切りいためてペセリをまぶします。おためし下さい。

## 教務より久保浩

新年度が始まって数ヶ月が過ぎ、入学式、授業開始と教務にとって忙しい時期から、幾らか落ちついた日々となりました。私も教務に携わって一年が経ち、学校業務の意義や複雑さについて、改めて認識しております。教務に関する就業規則上の業務は数多あり、実際的なことについては、学生要覧等に記載されていますが、それは別として私なりの解釈は「教育の場を充実させる為の執行の円滑な運営を図る」といった考えでいます。音楽科或は短大の意図する方向で企画し、又、科の方針に従った執行を行なう教務である訳で、その意味での具体的な事項、数字等を含めて主たる事について述べます。

まず、五十三年度新一年生は120名で専攻別の内訳は、器楽1類(ピアノ)50名、器楽2類、声乐2類(教育)27名、器楽3類(音楽学)3名、器楽4類(作曲)3名、器楽5類(オルガン)1名、器楽6類(ヴァイオリン)4名、器楽7類(チェロ)1名、器楽8類(フルート)5名、声乐1類(声乐)26名で、ここ数年の新一年生の在籍は、ほぼ120名前後に安定した数であり、10年前の一年在籍数55名に比すると、創立当時又、10年以前に卒業された方々には非常に大世帯になった感があるかと思えます。それでも、学生数は他の大学に比べれば全く少数であり、教員と学生とのふれ

あいは学生部の努力、又先生方の御協力もあってフェリスの特色を十分に継続しているものと思われ、又その方向で努力されています。設備の点では、教具であるピアノについてみると、10年前の台数が約10数台であったのが現在は50数台設置されています。

最近の開講々座について触れますと、昨年は、H・ドイッチ氏の二週間にわたる声楽作品研究、今年度は北川正氏、橋本英二氏の器楽作品研究の集中講義を始めとし、新しく副科打楽器、副科チエロが開設され、音楽の場の一層の充実が図られています。これらの楽器の履習希望者も非常に多く広く音楽をしようという気風は大変好ましいことと感じます。専攻実技関係では、主科実技の課題のカリキュラムの熟考はもろろんのこと、昨年度からは基礎ピアノ(副科としてのピアノ等)にグレード制が採用され、8段階に区分された、細かいカリキュラムによる試験課題で、それぞれの学生の能力に応じた課題が与えられるシステムとなり、又学内演奏会が年間6回終日行なわれ、その中5回は県民ホール等の会場(今年度は教育会館)で開催され延150名前後の学生が演奏しております。終りにあたり、上級進学希望者について申し添えますと、今年度の専攻科志願者は75名で現在59名が在籍しており、又研究生は5名となり二年のみでなく、三年、四年と勉強を続けたいと希望する学生が増えることは大変好ましいことでそれに応える為にも、短大としての機能の充実はもとより、音楽をする者に十分な環境とシステムを将来に向けて拡大する為の、教務としての地道めをしていこうと考えるこの頃です。(教務部長)

♪♪♪ 音楽科より ♪♪♪  
♪♪♪ のお知らせ ♪♪♪ 田中 順

合唱音楽研究会発足の予定をたてています。

正式には来春四月に結成したいと思いますが、会員の募集は今秋から行います。この研究会は、音楽科に所属し、卒業生の方々を対象に、アカデミックに合唱音楽を勉強して行こうとするものです。音楽科校舎において週一回(土・日を除く)午前中を研究会に当て、その成果は一年又は二年後から、フェリス合唱団演奏会というような形で発表会を持つことになりましょう。詳細は決定次第、近隣の卒業生の方々にお知らせします。どうか多勢の方の御参会を希望します。御計画の中にお覚え下さい。

フェリス先生方のリサイタル

フェリスの先生方のリサイタルを、お知らせいたします。いずれのチケットも、熊本美也子までお申し込み下さい。福岡電気ホールのみ、村上和子へお願います

●朝倉 蒼生<sup>たみ</sup> ソプラノ リサイタル  
ピアノ ヘルムート・ドイチ

7月24日(月)七時 イイノホール  
7月31日(月)七時 福岡電気ホール  
曲目 モーツァルト 歓喜に寄す クロロエに  
夕べの想い すみれ、他

シューマン 哀れなペーター I II III

静岡特別演奏会 9月29日 《中田喜直の夕》  
プログラム

- 合唱 伴奏 久保 浩  
七つのフランスの子供の歌
- メゾ・ソプラノ独唱 斉藤 定子 (12回生、静岡出身)  
《六つの子供の歌》全 伴奏 吉田 雅子
- 二台のピアノのための音楽 Songs in Praise of Beauty 久保 浩 安藤 友侯
- メゾ・ソプラノ独唱 江口 元子  
《海四章》 三好 達治 馬車、蟬、沙上、わが耳は 伴奏 吉田 雅子
- 合唱 伴奏 久保 浩  
ぶらんこ、青空の小径、小さな手、ねむの花、アダムとイヴ

合唱 フェリス女学院短期大学音楽科専攻科生、研究生  
合唱指揮 小泉 ひろし

●歌曲とピアノ連弾の夕

歌 佐々木成子 ピアノ 久保 浩  
「女の愛と生涯」(全)他

8月22日(火) 熊本市 熊本郵便貯金ホール  
曲目 シューベルト 歌曲、ピアノ連弾小品  
フォーレ ピアノ連弾ドリー、他  
ライナー・ホフマン 久保 浩  
二台のピアノの夕

9月8日(金)七時 第一生命ホール  
曲目 シューベルト 幻想曲 へ短調 作品103  
間宮芳生 二台のピアノの為の三章  
フォーレ ドリー  
M・レーガー モーツァルトの主題による変奏曲とフーガ 作品132a

京都特別演奏会 10月4日  
プログラム

- 幻想序曲《ロメオとジュリエット》 チャイコフスキー
- バリトン独唱 渡辺 明  
最後の七つの歌より グスタフ・マーラー  
私はこの世に忘れられ(リュッケルト詩) Es-Dur  
私の歌を見ないで(リュッケルト詩) F-Dur  
死んだ鼓手(子供の不思議な角笛より) C-moll
- ピアノ協奏曲 宇野 紀子  
イ短調作品54 シューマン
- 女声合唱と管弦楽のための頌 音楽科2年生  
《燕の歌》 團 伊玖磨  
ガブリエレ・ダヌンツィオの詩、上田 敏の訳による  
フェリス女学院創立100周年のための委嘱作品

指揮:小泉 ひろし  
管弦楽:京都交響楽団  
合唱:フェリス女学院短期大学音楽科2年生、研究生

●マツヤサロン・コンサート

大島君子ピアノリサイタル  
9月19日(火)六時半 マツヤサロン  
曲目 ハイドン ソナタ ハ長調  
シューベルト ソナタ ト長調  
モーツァルト 変奏曲 ニ長調  
ショパン 英雄ポロネーズ、他

●李 清 ピアノリサイタル

9月21日(木)七時 郵便貯金ホール  
曲目 ベートーヴェン 変奏曲 へ長調  
リスト ソナタ「熱情」  
三つの演奏会用練習曲  
メフイスト円舞曲

# Fグループ主催、後援の リサイタル及び研修会の報告

◆一九七七年 十一月十八日、三十日、十二月七日  
ピアノの導入について 大島久子先生

山手のイギリス館に於いて、三回連続で、大変有意義な研修会が持たれました。

◆四月十二日 大橋多美子 メゾソプラノ リサイタル 於 名古屋中電ホール

◆五月十二日 第二回Fグループ新人演奏会 於 神奈川県民小ホール

この三月に研究科を卒業された、鈴木みどり、石井則子、鈴木まり子さんのピアノ独奏と、賛助出演として、十二回卒業の、斉藤定子さんのメゾソプラノ独唱。一年に一度の門出を祝う音楽会です。これからも多くの皆様方の御来聴をいただきたいと願っております。

◆新人演奏会をおえて 鈴木みどり  
この度は私たち卒業生の演奏会にいろいろと御尽力いただき、まことにありがとうございます。

長いようで短かった四年間の総まとめとしてそれぞれの思いを込めて臨んだ演奏会でした。つたない演奏ではございましたが、ほんとうによい勉強になったと心より感謝しております。

これを土台に、これからは社会人の一人として深みのある勉強をしていきたいと、思っております。

◆六月二日 峯沢紉子・コラー横井汐音

二台のピアノ リサイタル 於 名古屋中電ホール

◆六月十五日 成瀬晴代 ポピュラーリサイタル 於 神奈川県立音楽堂

## Fグループ役員及び学年幹事

会長 大島 君子  
会計兼書記幹事 熊取谷寿子  
当番幹事 江原 郁子  
執行委員 岩崎 雅子  
報委員 熊本美也子  
理事評議員 大島 君子  
同窓会(白菊会)役員 田中 順 中島 恭子

第1回生	田中 順	第2回生	山本 和子
第3回生	大島 君子	第3回生	三宮 康子
第4回生	山下喜久子	第4回生	斉藤 芳恵
第5回生	中野 幸子	第5回生	八木 英子
第6回生	和田 慈子	第6回生	小林 英子
第7回生	石岡千鶴子	第7回生	浅野 佳子
第8回生	村田 晶乃	第8回生	江原 郁子
第9回生	額川 弘子	第9回生	林 美穂子
第10回生	田辺 静子	第10回生	遠山 洋子
第11回生	斉藤 令子	第10回生	鴨川 晴代
第12回生	下野みどり	第12回生	吉松 紀子
第13回生	片野 浩子	第13回生	土方 明美
第14回生	奥村 慶子	第14回生	土方 保子
第15回生	栗原 明子	第15回生	木村 晴子
第16回生	熊取谷寿子	第16回生	安達加代子
第17回生	竹田 恵子	第17回生	熊本美也子
第18回生	竹内真知子	第18回生	柴田 直美
第19回生	倉光 結子	第19回生	柴田由紀子
第20回生	小林 美和	第20回生	村瀬 潤子
第21回生	安部 幸子	第22回生	大竜 君子

### 昭和52年度会計報告

総収入	1,862,543	総支出	2,111,440
名簿代	643,000	名簿作成費用	901,006
研修会会費 (音楽科より印刷代を含む)	643,500	研修会費	566,690
終身会費	29,000	印刷代	175,400
同窓会費	63,000	通信費	134,716
白菊会より (51・52年度分)	200,000	音楽科事務所 役員会、幹事会費用	30,000
寄付	100,000	慶弔費	13,478
銀行利息	178,543	九州支部援助	50,000
その他	5,500	諸経費	160,000
		その他	12,450

前期繰越金 4,651,654  
現在高 4,402,757 (昭和53年3月31日現在)  
注) 本年度より決算が3月末日になりましたので、52年度終身会費は含まれておりません。

第22回生	山川 京子	第23回生	小宮 弘子
第23回生	宇都宮やす子	第24回生	小灘 裕子
第24回生	高木 純子	第24回生	白井千恵子
第25回生	田中 薫	第25回生	市川 和美
第26回生	中島 恭子	第26回生	大野 和美
第27回生	佐藤 きく	第27回生	鈴木みどり

### ★編集後記★

夏のおとずれと共に、Fグループ会報第七号をお届けします。学年幹事一覧をのせましたが、変更のある場合は、当番幹事までお知らせ下さい。

(熊本美也子)